

# 四国

S h i k o k u E c o n o m y N a v i g a t o r

# 経済ナビ

地域経済情報誌



# 6

JUNE 2004

# 706

特集／産業事故ゼロを目指して  
～ガス事業所における保安活動の実施状況～



# 各地の元気企業等インタビュー

No. 14

## 株式会社 神島組

代表取締役：神島 昭男  
所在地：兵庫県西宮市甲風園3-9-5  
資本金：2,000万円  
従業員：20名  
種業：建設業、総合工事業（総合建設業）

株式会社神島組は昭和十五年に土木工事を主な事業として創業しました。パブル経済崩壊後は、生き残りをかけ「必要とされる企業・必要とされる社員」を目標に岩盤掘削工法から岩の処理、リサイクルに至るまでの独自技術の特許を十九件取得し、平成十四年には「ひょうご経営革新大賞」を受賞しました。今回の訪問では神島社長に特許への取り組みについて、また今後の事業展開についてお話をうかがいました。（産業部中小企業課）

——会社の事業方針の転換（特許戦略）となってきたきっかけを教えてください。

昭和十五年に父が創業し、河川工事や宅地造成を手がける老舗として事業を行っていましたが、公共工事の減少などで先細りは明らかであったし、生き残るためには業務の差別化を図る必要に迫られていました。

また、パブル崩壊後の平成十一年に知り合いから「おたくは阪神間で必要とされる会社ですか？」と尋ねられ、絶句してしまいました。建設業界で必要とされる会社になるには、六甲山系の岩盤やゴロ石、わき水といった工事につきものの課題へ挑戦することと、特許戦略でした。その後、社員の前で「特許宣言」をし、独り社長室で過去の工事台帳の洗い直し作業を行いました。業界に入って四十年近くになりますが、さまざまな工事現場で作業が順調にはかどるかどうかのカギを握るのは「岩」であると

気がつきました。

岩の除去作業には割岩や運搬に時間がかかるので、「大きな岩を簡単に割ったり、逆に割らずに安全に移動させる方法を見つければ、作業がスムーズに進むのではないだろうか。岩を自由に操れないだろうか。」ということに焦点を当て、研究いたしました。専門書の「せん断力」に着目しました（岩石はさくい性質があるが内部から三百



石吊出用工具「ツレール君」

六十度均等に力を加えると割れない。しかし岩盤を叩いて割る時は、その岩よりも強い力が必要だがせん断力破壊だと約十分の一の力で割れてしまう。

社員への宣言から三ヶ月後の八月にこの原理を応用した石吊出用工具「ツレール君」で特許を出願し、取得しました。お陰様で国土交通省のお墨付きも頂きました。

——特許に結びつくアイデアは何から得ていますか。特許は誰が考えているのでしょうか。

特許のアイデアは私の過去の経験に基づき、苦労したり、失敗した事からヒントを得て、考えついたものです。昔の従業員は失敗をすると隠したのですが、私が特許申請を始めてからは、従業員から失敗談をしてくれるようになりました。特許は私独りで考え、設計、試作品は業者にお願いでして作成してもらい、試行錯誤を重ねて行きます。

現在（平成十六年一月）、三十七件の特許申請をしております。

——今後の事業展開について教えてください。

平成十四年一月に兵庫県内の建設業者十三社が、お互いの得意技術を営業戦略に取り入れ合って、受注拡大を目指す「新建設技術工法協会」を発足させました。同協会は公共事業の低迷で再編や倒産が相次ぐ業界で、顧客が求める技術を各社で共有し、

共同研究も視野に入れて、生き残りをかけて活動しております。

石の多い四国地方への進出は愛媛県の浅田組を中心に取組中です。

当社は特許技術を基に、工事の受注や下請けに入り、事業を行っております。特許技術を使った工事が必要な場合には全国を回っております。また、環境、リサイクルに配慮した「草刈り君」も開発しており、「環境・リサイクル・コスト削減」をキーワードに事業を展開したいと思っております。



「草刈り君」

も申し上げましたように、生き残りをかけるには他の業者との差別化が必要です。それが何かを考え、行動して頂きたいと思っています。

また、経営が困難であるという理由で、五十才代の現場の経験者をリストラする企業がありますが、その年代の人ほど企業にとつて有益な情報を持っている人はありません。私は自分の経験に基づき、特許を得ることが出来ましたが、過去の経験がなければ、このような事はできなかったと思っています。企業内の研究所等を作り、先程のような方を研究員として、今までの現場

の経験やノウハウを活用出来る場を作ったらどうだろうかと思えます。そもそも、土木・建設業界は「実績尊重で技術革新には後ろ向き」の風潮がある上に、経験を積んだ技術者がいなくなれば、研究開発へのマインドが弱まるのではないかと懸念しております。

最近やつと「新技術」への評価が感じられる様になりましたが皆様も「待ち」から「攻め」への経営を心がけ「石は固い」と思い込まず発想の転換をはかって活路を是非見いだしていただきたいと思えます。

#### 取材を終えて

神島社長の気さくな性格とバイタリテイあふれるお話のお陰で、和やかに取材を行うことができました。社長室に飾ってある特許登録書の数の多さには正直びっくりしましたが、今も申請中の案件が三十七件あり、介護関係の特許申請もしているとの事。

神島社長の発想の元は「苦労したり、失敗したことをどうしたら簡単に成功へ導けるか。」と言うことで、神島社長のアイデアは尽きることがないと感じました。

従来の事業展開だけではなく、自らアイデアを出し、挑戦し続けている神島社長の姿は四国の経営者にも参考になる点が多いのではないのでしょうか。

不況で経営難に苦しむ同業者へ一言お願いします。

従来からの建設業だけの仕事で経営を継続しようとしても駄目だと思います。先程



神島社長